



ゴール(理想)

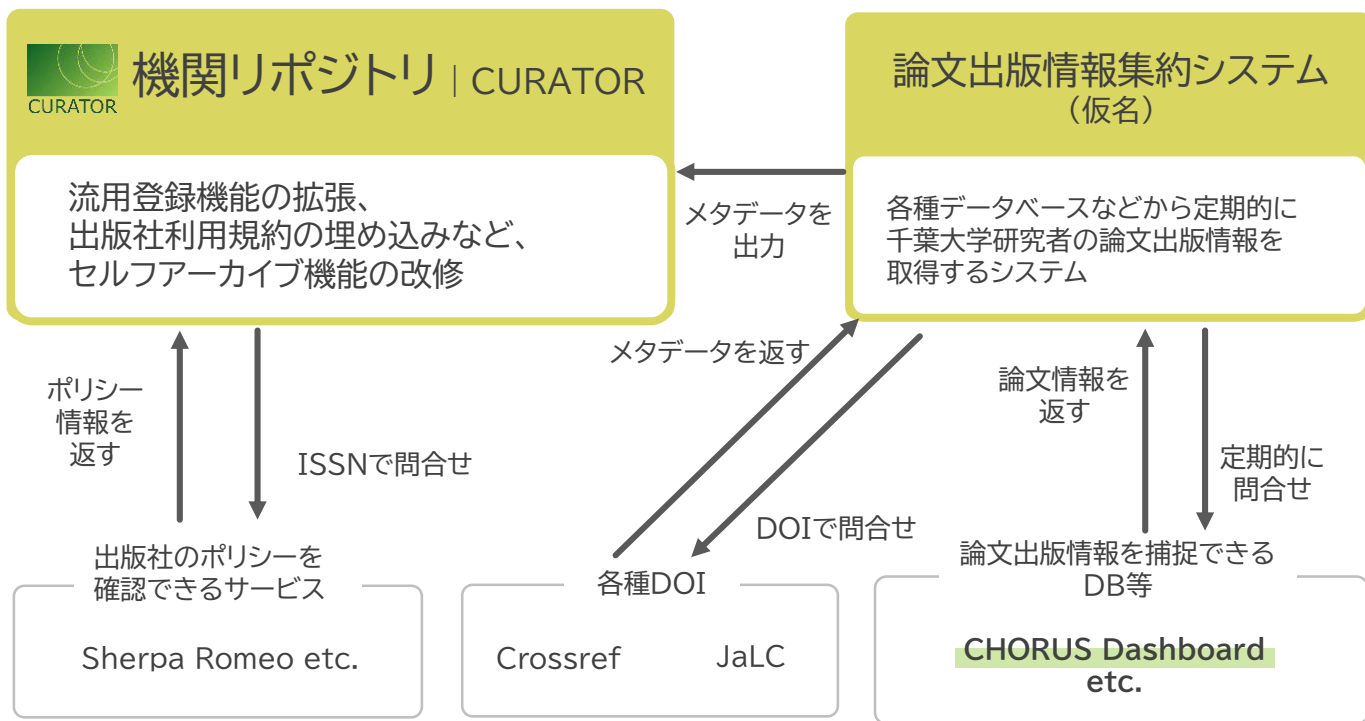
即時OA義務化による追加の負担をできるだけ増やさずオープンアクセスを実行する

→ 論文出版情報をトリガーとして、メタデータを自動登録するOAワークフローを目指す



システム連携イメージ

1. CHORUS Institution Dashboard Service等から定期的に千葉大学研究者の論文出版情報を取得
2. 取得した情報をCrossrefやJaLCから呼び出し、機関リポジトリ登録用にメタデータを充足
3. 機関リポジトリへメタデータを出力し、メタデータを自動で登録



CHORUS Institution Dashboard Serviceを利用するメリット

- 助成情報が入っているので、具体的方策*の研究費で実施された論文を把握しやすい
- 自機関の研究者のデータのみ確認できる(ノイズが少ない)
- ステータスが明示されるため、OAか否か把握しやすい
 - OAの場合：自動登録
 - Unknown/Noの場合：調査して、研究者にアプローチ

* 学術論文等の即時オープンアクセスの実現に向けた基本方針の実施にあたっての具体的方策 (令和6年2月21日関係府省申合せ) https://www8.cao.go.jp/cstp/openscience/r6_0221/hosaku.pdf